

中堅国の協力で協調の世界を

マーク・カーニー（カナダ首相）

世界経済フォーラム 2026 年 1 月 27 日

以下は、2026 年のダボス会議でカナダのマーク・カーニー首相が行った特別演説の全文です。カーニー首相は、ルールに基づく国際秩序が終わりつつあると強調し、カナダがどのように戦略的自立を築きつつ、人権や主権といった価値を守ろうとしているかを説明しました。また、カナダのような中堅国は協力し合い、ハードパワーの台頭や大国間の対立に対抗して、より協調的で強靱な世界を築くべきだと呼びかけた。（世界経済フォーラムの HP の説明）

本日は、世界秩序の崩壊、快適な世界の終焉、そして厳しい現実の始まりについてお話しする。そこでは、地政学、つまり覇権国による国際政治学が、いかなる制限も制約も受けない状況になっている。

一方で申し上げたいのは、カナダのような中間国を含む他の国々が無力ではないということだ。

それらは有している。人権尊重、持続可能な開発、連帯、主権、各国家の領土保全といった我々の価値観を包含する新たな秩序を構築する能力を。そして弱者の力は、誠実さから始まる。

日々、我々は強国間の競争が激化する時代に生きていることを思い知らされている。ルールに基づく秩序は衰退し、強者はできることを行い、弱者は耐えねばならない。

トゥキディデスのこの警句は、国際関係の「ジャングルの掟」論が再び現れる必然として提示される。この論理に直面すると、各国は「波風を立てず、妥協し、トラブルを避け、従順さが安全を買うことを願う」方向に強く傾く。

しかし、それが叶うことはない。では、我々の選択肢は何だろうか？

1978 年、後に大統領となるチェコの反体制派ヴァーツラフ・ハヴェルは『無力な者の力』と題するエッセイを執筆した。その中で彼は単純な問いを投げかけた：共産主義体制は如何にして存続したのか？

そして彼の答えは、ある八百屋の話から始まった。

毎朝、この店主は窓に一枚の看板を掲げる：『全世界の労働者よ、団結せよ』

彼は信じていない、誰も信じていない。それでも彼はトラブルを避けるため、従順を示すため、うまくやっていくために看板を掲げる。そしてどの街のどの店主も同じことをするからこそ、この体制は持続する——暴力だけではなく、人々が内心では虚偽と知りつつも儀式に参加することで。

ハヴェルはこれを「嘘の中で生きる」と呼んだ。

このシステムの力は、その真実性からではなく、誰もが真実であるかのように振る舞う意思から生まれる。その脆弱性もまた、同じ源泉から来ている。たった一人でも振る舞いを止めるとき、青果店が看板を外すとき、幻想はひび割れ始める。友よ、今こそ企業も国家も看板を下ろすべき時だ。

数十年にわたり、カナダのような国々は「ルールに基づく国際秩序」の下で繁栄してきた。我々はその機関に参加し、その原則を称賛し、その予測可能性から恩恵を受けてきた。それゆえに、その保護の下で価値観に基づく外交政策を追求できたのだ。

我々は知っていた 国際的なルールに基づく秩序の物語が部分的に虚偽であることを。強大な国々は都合の良い時に自らを免除し、貿易ルールは非対称的に執行されることを。そして国際法が、被告や被害者の身分によって適用される厳格さが異なることも。

この「虚構」Fiction は有用であり、特にアメリカの覇権は公共財の提供、海上航路の開放、安定した金融システム、集団安全保障、紛争解決枠組みの支援に貢献した。そこで我々は看板を窓に掲げた。儀式に参加し、レトリックと現実の乖離を指摘することをほぼ避けてきた。

この取引はもはや機能しない。率直に言おう。我々は移行期ではなく断絶の真っ只中にある。過去 20 年間*、金融・医療・エネルギー・地政学における一連の危機が、極端なグローバル統合のリスクを露呈した。

（訳注：2008 年、リーマンショックに始まった国際金融危機は、ドル支配の延命のために各国が犠牲になることで終焉を迎えた。日欧の先進国はドル支配を受け入れ、軍事的政治的従属を深めた）

「しかし近年、大国（アメリカ帝国主義の間接的表現）は経済統合を武器として、関税を梃子として、金融インフラを強制手段として、サプライチェーンを搾取すべき脆弱性として利用し始めた。統合が自らの従属の源となる時、統合による相互利益という虚構の中で生き続けることはできない。」（名句だ！）

中堅国が依存してきた多国間機関　WTO、国連、COP　つまり集団的問題解決の枠組みそのものが脅威に晒されている。その結果、多くの国々が同じ結論に至っている。エネルギー、食料、重要鉱物、金融、サプライチェーンにおいて、より大きな戦略的自律性を確立しなければならないと。

この動きは理解できる。

自給自足できず、燃料も確保できず、防衛もできない国に選択肢はほとんどない。ルールがもはやあなたを守らないなら、自らを守らねばならない。しかし、これがどこへ至るのかを明確に見据えよう。要塞化された世界は、より貧しく、より脆弱で、持続可能性に欠けるものとなる。

そしてもう一つの真実がある。

もし大国が、自らの権力と利益を妨げられずに追求するために、ルールや価値観の体裁すら放棄するなら、取引主義（transactionalism）による利益は再現が困難になるだろう。

覇権国は関係性を継続的に金銭化できない。同盟国は不確実性へのヘッジとして多様化を図る。保険を購入し、選択肢を増やすことで主権を再構築する。要するに、かつてはルールに根ざしていた主権が、今後は圧力に耐える能力に支えられるようになる。

この場にいる皆は、これが古典的なリスク管理だと理解している。

リスク管理のコストは共有可能だ

リスク管理には代償が伴うが、戦略的自律性や主権のコストは共有することも可能だ。レジリエンスへの共同投資は、各々が要塞を築くより安価である。共有基準は分断を軽減する。補完性は正の和をもたらす。

カナダのような中堅国にとっての課題は、新たな現実に適応すべきか否かではない——適応は必須だ。問題は、たんに壁を高く築くことで適応できるのか、それともより野心的な行動を選択できるのだろうか。

価値観に基づく現実主義

カナダは、この警鐘をいち早く受け止め、戦略的姿勢を根本的に転換しました。

カナダ国民は、（米国との良好な関係のもとで）地理的条件と同盟関係によって自動的に繁栄と安全がもたらされるという前提は、もはや成り立たないことを認識している。その前提はもはや有効ではない。そして、私たちの新しいア

ブローチは、フィンランドのアレクサンデル・ストゥブ大統領が「価値観に基づく現実主義」と呼んだものに基づいている。

言い換えれば、私たちは、原則と実用性の両方を追求する必要がある。つまり、基本的価値観、主権、領土保全、国連憲章に則った場合を除き武力行使の禁止、人権の尊重に対するコミットメントにおいて原則を貫くこと、同時に政策は現実的であり、利害は分岐し、すべてのパートナーが我々の価値観をすべて共有するわけではないことを認識しなければならない。そして進歩は多くの場合漸進的であることを認識しなければならない。

したがって我々は、現実を直視しつつ広範かつ戦略的に関与する。理想とする世界が訪れるのを待つのではなく、現実の世界に積極的に向き合う。これがわたしたちの基本的姿勢だ。

我々は国際関係の調整を進めている。それが我々の価値観を反映するよう努めている。調整にあたっては幅広い関与を優先している。影響力を最大化するためには、まず幅広さがもとめられているからだ。

現在の世界の流動性、それがもたらすリスク、そして今後の行方における重大性を踏まえ、もはや共通の価値観だけに頼るのではなく、我々の強さの価値にも目配りしなければならない。その強さを国内で構築していかなければならない。

政権発足以来、わたしたちは所得税・キャピタルゲイン税・事業投資税を削減した。州間貿易における連邦政府の障壁を全て撤廃した。いまはエネルギー・AI・重要鉱物・新貿易回廊などへの1兆ドル規模の投資を迅速に推進中だ。今世紀末までに防衛費を倍増させます。それと同時に、国内産業を育成する形で防衛力増大を実現する。

そして我々は海外で急速に多様化を進めている。EUとは包括的戦略的パートナーシップに合意し、欧州防衛調達枠組み「SAFE」への参加も含まれる。過去6ヶ月で4大陸において12の貿易・安全保障協定を締結した。ここ数日の

あいだに、中国とカタルとの新たな戦略的パートナーシップを締結した。インド、ASEAN、タイ、フィリピン、メルコスールとの自由貿易協定交渉を進めている。

さらに別の取り組みも行っている。

地球規模の問題解決に向け、共通の価値観と利益に基づく「可変幾何学」 variable geometry つまり課題ごとに異なる連合を形成する戦略を推進中です。ウクライナ問題では、我々は「有志連合」の中核メンバーであり、防衛・安全保障分野における一人当たり最大の貢献国の一つだ。

北極圏の主権に関しては、我々はグリーンランドとデンマークを断固として支持し、グリーンランドの将来を決定する彼らの固有の権利を全面的に支持する。

NATO 第 5 条への我々のコミットメントは揺るぎない。そのため、NATO 同盟国、特に北欧バルトゲートと連携し、同盟の北側及び西側の防衛基盤を強化する。

このため、カナダが地平線越えレーダー、潜水艦、航空機、地上部隊及び氷上部隊への前例のない規模の投資を含む取り組みを進めている。

カナダはグリーンランドへの関税導入に強く反対し、北極圏における安全保障と繁栄という共通目標達成に向けた集中的な協議を呼びかける。

多国間貿易では、環太平洋パートナーシップ協定と欧州連合の架け橋となる取り組みを主導し、15 億人を擁する新たな貿易圏の創設を目指している。重要鉱物については、G7 を基盤とした買い手クラブを形成し、供給源の集中化からの脱却を図っている。そして AI 分野では、民主主義国家同士で協力し、覇権国とハイパースケーラーの二者択一を迫られる事態を回避する。

これはナイーブな多国間主義でも、既存機関への依存でもない。課題ごとに、行動を共にできる共通基盤を持つパートナーと、機能する連合を構築する。場合によっては、これが大多数の国々となるだろう。

それは貿易、投資、文化にわたる密接なつながりの網を構築しており、将来の課題や機会に対応する基盤となる。中堅国は結束して行動すべきだ。なぜなら、我々が交渉の席に着かなければ、我々が標的となるからだ。

大国は現時点では単独行動も許される。市場規模、軍事力、条件を押し付ける影響力を有しているからだ。中堅国にはそれらが欠けている。だが覇権国と二国間交渉のみを行う場合、我々は弱みから交渉することになる。提示された条件を個別に受け入れ、互いが最も譲歩する国となるべく競い合う。これは主権ではない。従属を受け入れつつ主権を演じているに過ぎない。

大国間の競争が激化する世界において、その間に位置する国々には選択肢がある。互いに恩恵を求めて競い合うか、それとも結束して影響力を持つ第三の道を創り出すかである。

ハードパワーの台頭に目を奪われてはならない。ハヴェルの言葉が再び思い起こされる。

正当性・誠実性・ルールに基づく力の強さは、それらを共に振るうことを選ぶなら、依然として揺るぎないものだ...

中堅国にとって真実を生きることとは何を意味するか

第一に現実を直視することだ。ルールに基づく国際秩序が宣伝通り機能しているかのように呼び続けるのを止めよ。あるがままに呼ぶことだ。それは激化する大国間の対立を元とするシステムであり、最強国（米国）が経済統合を恫喝の手段として自らの利益を追求する場である。

それは一貫した行動を意味する。彼が、同盟国にもライバルにも同じ基準を適用することだ。中堅国がある方向からの経済的威圧を批判しながら、別の方向からのそれには沈黙を守る時、私たちは看板を店晒しのままにしているに過ぎない。

古い秩序が回復されるのを待つのではなく、私たちが信じるものを実際に築くことを意味する。それは、説明通りに機能する制度や合意を創り出すことを意味する。そしてそれは、強制を可能にする影響力を減らすこと——つまり強固な国内経済を構築することを意味する。

これはあらゆる政府の喫緊の優先課題であるべきだ。

国際的な多様化は単なる経済的慎重策ではなく、誠実な外交政策の物質的基盤である。なぜなら、報復への脆弱性を減らすことで、国は原則に基づく立場を取る権利を獲得するからだ。

ではカナダはどうか。カナダは世界が求めるものを有している。我々はエネルギー超大国である。重要鉱物の膨大な埋蔵量を保有している。

世界で最も教育水準の高い国民を有し、年金基金は世界最大級かつ最も洗練された投資家の一角を占める。

つまり我々は資本と人材を兼ね備えている。それに加えて、断固たる行動を取るための膨大な財政能力も有している。そして多くの国々が憧れる価値観も備えているのだ。

カナダは機能する多元的社会だ。私たちの公共の場は騒がしく、多様で、自由である。カナダ国民は持続可能性への取り組みを堅持している。不安定な世界において、私たちは安定し信頼できるパートナーだ。長期的な関係を築き、大切にするパートナーである。

そして私たちにはもう一つある。現状を認識し、それに応じて行動する決意だ。この断絶には適応以上のものが必要だと理解している。あるがままの世界を正直に見つめることが求められるのだ。

私たちは窓から看板を外す。古い秩序が戻らないことを知っている。それを嘆くべきではない。ノスタルジアは戦略ではない。

私たちは、この断絶からより大きく、より良く、より強く、より公正なものを築けると信じている。これが中堅国の使命だ。要塞化された世界から最も失うものが多い国々であり、真の協力から最も得るものが多い国々である。

スーパーパワーの国々にはその力がある。

しかし我々にも力がある　偽りを止め、現実を直視し、国内で力を蓄え、共に行動する力だ。

これがカナダの道である。我々はこれを公然と自信を持って選ぶ。そしてこの道は、共に歩む意志を持つあらゆる国に広く開かれている。ありがとうございました。」

【翻訳チェック　鈴木頌】